

ポストドクター制度の在り方に関する論点（メモ）

1. ポストドクター等を国が支援する場合には、日本学術振興会の特別研究員制度のようなフェローシップ型と競争的研究資金によるプロジェクト雇用型の2つに大別される。それぞれの支援形態のメリット、デメリットをどう考えるか。

< 支援形態例 >

- ・ フェローシップ型・・・ex. 独立性、自主性の確保。
- ・ プロジェクト雇用型・・・ex. 研究の円滑な遂行。

（ 国立大学等雇用型
特殊法人型 ）

2. 我が国のポスドク支援は、現在、全体の5割近くがフェローシップ型であるが、これをどう評価すべきか。
 - ポスドクの“独立性”をどの程度重視すべきか。
3. 今後、ポスドク支援はどの程度の規模が適切と考えられるか。
 - 我が国の大学院博士課程修了者、約13,600人に対し、新規ポスドクは約2,500人（約7,500人の1/3で推計）約18%。
米国は約40,000人に対し、新規ポスドクは約7,000人、約18%。
ただし米国は外国人が多いため、米国に残るポスドクは少なくなる。
 - 我が国の博士課程修了者は、米国と比較して卒業後の進路が見つかりにくいことを考えると、ポスドク支援を拡充し、博士課程修了者数を増加させても、その後の就職先が見つからないということにならないか。